ID No.	2110
研究課題名	子宮体癌スクリーニングにおける液状化細胞診検体の遺伝子解析研究
研究代表者	齋藤 豪 (札幌医科大学·教授)
研究組織	
受入教員	古川 洋一 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	岩崎 雅宏 (札幌医科大学・准教授)
	寺本 瑞絵 (札幌医科大学·講師)
	郷久 晴朗 (札幌医科大学・講師)
	松浦 基樹 (札幌医科大学・講師)
	寺田 倫子 (札幌医科大学・助教)
	長谷川 匡 (札幌医科大学・教授)
	杉田 真太郎 (札幌医科大学・准教授)
	池上 恒雄 (東京大学医科学研究所・准教授)
	山口 貴世志 (東京大学医科学研究所 ·特任講師)
	畠山 晴良 (東京大学医科学研究所·学術支援専門職員)
	幸保 莉香 (東京大学医科学研究所・技術補佐員)

研究報告書

子宮内膜ブラシで採取した液状化細胞診検体(10 ml)の余剰検体(2ml)185例を収集し、これらの検体からDNAを抽出した。その結果、175例(95.1%)で200 ng以上のDNAの抽出が可能であった。子宮体がんで高頻度に体細胞変異が認められる遺伝子の中で変異の存在する領域が比較的狭い5遺伝子(PTEN、PIK3CA、CTNNB1、KRAS、TP53)を選択し、48例でアンプリコンシーケンスによる遺伝子解析を行った。子宮体がん20名の中で15名は液状化細胞診のみで要精密検査と診断され、遺伝子解析では18名が腫瘍を疑われ、そのうち17名に子宮がんが認められた。両者の併用で子宮体がん全例が診断可能であった(Matsuura, et al. CancerScience 2018)。